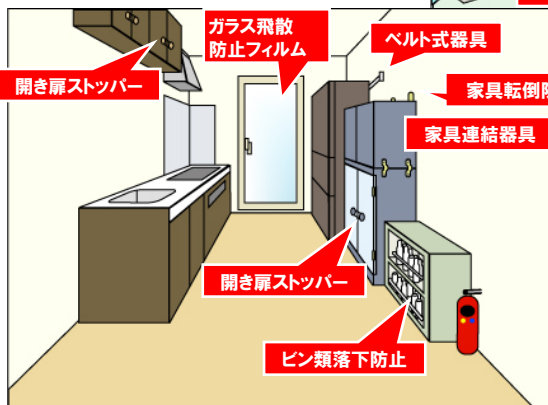
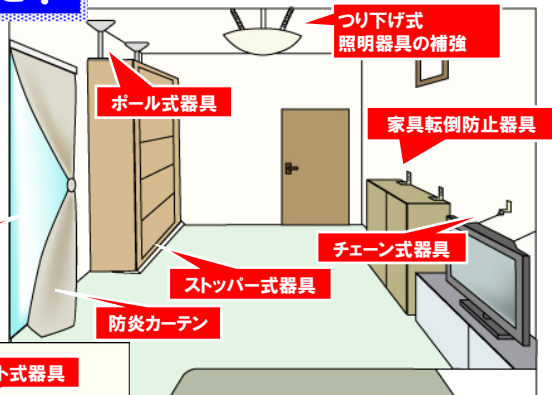


3 こんなところも忘れずに！

家の中を見回すと、地震の際に危険なのは家具だけではありません。

下の図を参考に、対策を施しましょう。



- 窓や食器棚などのガラスの飛散防止
- 照明器具などの落下防止
- ビンなどの落下防止
- テレビ、冷蔵庫、電子レンジなどの家電製品の転倒・落下防止
- 防炎カーテンの使用

家具類の転倒・落下を防止しよう！



家具類の転倒・落下防止は、なぜ必要なの？

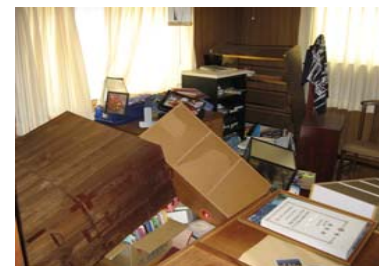
近年発生した大きな地震では、家具類の転倒・落下や割れたガラスによる負傷者が、全体の約3割～5割を占めています。

地震から身を守るため、できることから今すぐはじめてみましょう！

○家具類の転倒等による負傷者の割合

| | |
|-------------------|-------|
| 新潟県中越沖地震 (H19年7月) | 40.7% |
| 福岡県西方沖地震 (H17年3月) | 36.0% |
| 新潟県中越地震 (H16年10月) | 41.2% |
| 十勝沖地震 (H15年9月) | 36.3% |
| 宮城県北部地震 (H15年7月) | 49.4% |

(東京消防庁調べ)



平成19年7月16日に発生した中越沖地震の際の被害例

1 まずは安全空間の確保！

家具の置き場所や置き方を見直し、室内の安全空間を確保しましょう！

<チェックポイント> お部屋の中をチェック！

- 寝室・幼児・高齢者のいる部屋には家具を置いていないか。
- 部屋の出入口付近や廊下階段などに家具類を置いていないか。
- 地震時の出火を防ぐため火気の周辺に家具を置いていないか。
- 家具の上にガラス製品やテレビなど落下すると危険なものを置いていないか。
- 重いものを下のほうに収納し、倒れにくくしてあるか。
- 前のめりより、後ろもたれ気味に家具を置いているか。

4 どこに相談すればいいの？

家具類の転倒等防止対策に関するお問合せは、お住まいの区市町村、お近くの消防署又は東京都総合防災部まで

参考 <http://www.bousai.metro.tokyo.jp/japanese/athome/falling.html>
ホームページ <http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/okt.html>

実際の家具等の固定にあたっては、器具を購入するホームセンターや工務店、専門業者などに相談しましょう。

区市町村によっては、高齢者などへの固定器具の購入費等の助成、固定器具の販売又は取り付け業者・シルバー人材センターのあっせんを行っているところもありますので、問い合わせてみましょう。

2 転倒防止器具で固定する!

適切な転倒防止器具を選んで、正しく取り付けましょう。器具はホームセンターなどで販売されています。

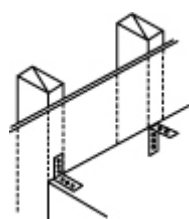
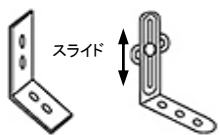
主な転倒防止器具の種類と取り付けの際の留意点

○家具と壁を直接固定するタイプ

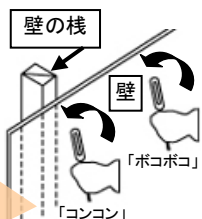
L型金具

金具で家具と壁を直接固定するタイプ

壁の棧(さん)と家具の芯材が確実に入っている位置に、長めの木ねじを使用して取り付ける。



棧がある場所は、叩くと「コンコン」と固い音がします。棧がない壁や遮音・耐火の問題などから、穴をあけられない壁があるので、専門家は必ず工務店などの専門家に相談しましょう!



ベルト式器具、チェーン式器具、プレート式器具

家具と壁をそれぞれネジ止めした金具を、ベルト、チェーンなどで結ぶタイプ



壁や家具の取り付け位置にL型金具と同様の注意が必要

家具の側面に30°以下の角度でピンと張る必要がある。たるみがあると効果がない。



○家具と壁を直接固定しないタイプ

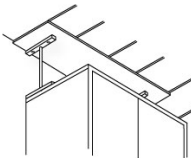
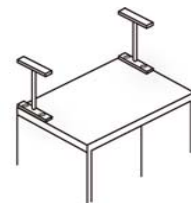
ボール式器具(つっぱり棒)

家具と天井との隙間に設置する棒状のタイプ
家具の両側の側板の位置に設置する。

天井に家具を支えるだけの強度がないと効果が少ない。

天井側に厚めの板を渡し、板・家具とボールをねじ止めすると効果的。

家具と天井との間が大きく空いている場合や奥行きのない家具には効果がない。



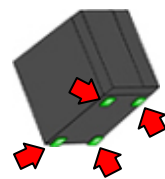
ストッパー式器具

家具の前方下部に挟み家具を壁側に傾斜させるタイプ



マット式器具

粘着性のゲル状のもので家具の底面と床面を粘着させるタイプ



家具等転倒防止器具の効果

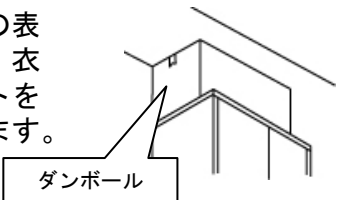
東京消防庁の実験結果によれば、**L型金具で家具と壁とを直接ネジで固定する方法が最も効果が高い**ことがわかりました。

右の表は、その実験結果に基づき、家具等転倒防止器具の効果のイメージを表にまとめたものです。

賃貸住宅にお住まいの場合などで、家具と壁を直接固定できない場合は、つっぱり棒とストッパー式など2個以上の器具を組み合わせると単独で使用するよりも効果が高くなります。

なお、同じ器具を使用しても、壁や天井及び床の状況によってその効果は大きく変わってきます。必ずしも右表のような効果の順番になるとは限りませんのでご注意ください。

また、実験結果にはありませんが、右の表のような器具のほか、家具と天井の間に、衣服などを詰めた段ボール箱や収納ユニットを隙間なく置くだけでも一定の効果があります。



| 使用条件 | 小 | 地震動に対する器具の効果 | 大 | 取付条件 |
|---|---|----------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 単独で使した場合 | L字型金具(スライド式) ベルト式 チェーン式 ストッパー式 | L字型金具(上向き取付) プレート式 | L字型金具(下向き取付) | 家具、壁面の取付け部分や器具自体に十分な強度が必要 |
| 組み合わせて使用した場合(一例) | マット式 | ボール式(つっぱり棒) ボール式とストッパー式 | ボール式とストッパー式 ボール式とマット式 | 家具の天板と天井部分に強度が必要 |
| <p>1. 上記は、東京消防庁が実施した実験において使用した器具の効果を相対比較したものです。 2. 実験は、阪神・淡路大震災(神戸海洋気象台観測波形)の地震波震度6強相当で加震し、家具に食器棚(H1800mm、D406、W896、重量64.5kg、内容物50kgオモリ)を使用して、床面はフローリングとしています。 壁・天井等は固定に十分耐えられる強度を確保しています。また、使用した器具等は同型の製品でも材質、形状等が異なるものがあります。</p> <p>これらのことから、使用する家具、室内環境、器具の性能により、今回の結果が異なる場合も想定されます。</p> | | | | |